

# 調査の結果を PDCAサイクルで有効に活用しよう

～盛岡市立城西中学校と埼玉県教育委員会の取組から～

## 課題解決に向けてのポイント

- 返却されたデータを独自に分析・考察する
- 明確な目標と具体的な計画を立てる
- 達成の状況について評価し改善する
- 改善策を次年度の計画につなげる

point



## 学校の視点に立ったPDCAサイクル

### Plan▶▶

#### 返却された自校のデータを 分析・考察し、計画を立てる

盛岡市立城西中学校では、昨年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果の分析から、生徒調査票における保健体育の授業に関してのほとんどの質問で肯定率が全国平均

を10～20ポイント以上上回ったのに対し、「運動やスポーツをすることは好き」という質問については、ほぼ全国平均と同等であったことがわかった。そこで、「運動やスポーツをすることは好き」について課題があると考え、「好き」になるようにするために、次年度の計画として、保健体育の授業の改善に取り組むこ

とにした。分析した結果と課題について話し合った内容は、校内の学校保健委員会で報告し、学校全体で共有している。また、学区の近隣にある小学校3校の教員と分析の結果をもち寄り、意見交換を行いながら課題の共有化も図っている。

### Do①▶▶

#### ウォーミングアップの工夫と改善

運動の苦手な生徒でも主運動にスムーズに入り込むことができるようにウォーミングアップの工夫と改善に取り組んだ。従来のウォーミングアップは、主運動にあまり関係なく展開される傾向にあった。そこで、主運動での運動の学習量を確保しながら、単元の学習に必要な動きを含んだ効果的なウォーミングアップを、短時間に取り組めるよう改善した。また、生徒の意欲の喚起をねらって、体育理論と種目がどのようにつながっているかを理解できるよう工夫している。



▲授業風景の写真（城西中学校）

## Do②▶▶ 仲間からの声かけを重視

平成25年度本調査の結果から、友達に認めてもらえることと体育・保健体育の授業が楽しくなることに関係があることが分かっている。そこで、運動の苦手な生徒たちも頑張れるような雰囲気づくりのため、仲間からの声かけを大切にしたい。さらに、女子に対しては、日常の信頼関係が授業にもつながっていると考え、日頃から一人一人の生活面での変化を

観察し、積極的な声かけを心がけることにより、保健体育の授業におけるやる気を引き出している。

## Check▶▶ 授業に関するアンケートを 授業の改善に役立てる

毎学期、単元を特定して、生徒たちに授業に関するアンケート調査を実施しており、結果を教員の授業づくりのためのデータとして活用している。このことにより、生徒の実態に応じたきめ細やかな授業の展開に

変えることができた。

また、保健体育の授業にも早く来るなど、生徒が自主的に授業に取り組む姿が見られるようになった。

## Action▶▶ 評価から新たに 見えてくるものを提示する

授業評価の結果から、次なる改善点が見えてきた。

- ①あまり運動が得意でない生徒に焦点を当てて分析し、授業の改善を検討することが必要
- ②仲間とかかわり合うことの多い球技系の授業については、さらに改善が必要
- ③体力の向上のための取組を、今以上に学校全体で共有していくことが必要

そして、12月に配布される結果と共に改善策を次年度の計画につなげていくことが重要である。

### コラム Column

#### PDCAサイクル

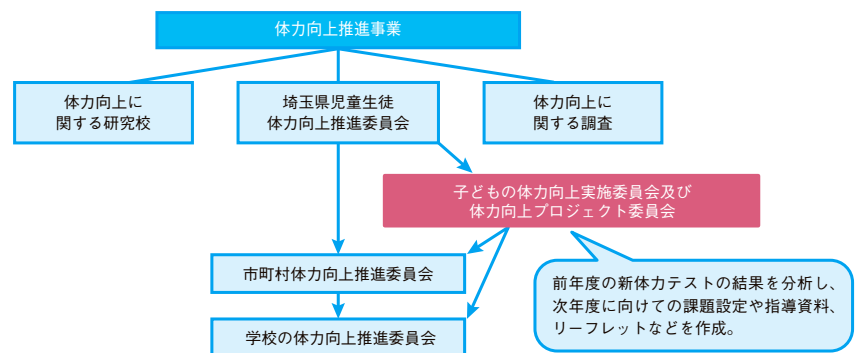
子供の体力の向上のためのPDCAサイクルは、「Plan(実施計画・指導計画)」→「Do(取組実施・授業実践)」→「Check(学校評価・授業評価・全国体力等調査)」→「Action(改善)」から構成されている。各教育委員会・学校は、全国体力等調査の結果から、子供の体力の向上に向けて具体的な目標と計画を立て、計画した取組を実行し、そして達成状況について評価し改善していくことが望まれる。

## 学校を動かす教育委員会としてのPDCAサイクル

### Plan▶▶ 全ての市町村と小・中学校に 体力向上推進委員会を設置

埼玉県では、平成25年度現在、県内全ての市町村と小・中学校に体力向上推進委員会が設置されている。それぞれの委員会では、県全体の課題を受け、自治体及び学校ごとに課題を整理して計画を立て、児童生徒の体力向上施策に取り組んでいる。

また、県にはそれらを統括する埼玉県児童生徒体力向上推進委員会が設置されている。この委員会は、年3回実施され、子供の体力の向上にかかわる様々な立場からの有識者で構成されている。毎年行われる全国



▲埼玉県体力向上推進事業の組織図

体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を受けて、課題を整理したり、目標の方向性を見極めたりしている。さらに、その委員会での提言を基に、小委員会である「子どもの体力向上実施委員会及び体力向上プロジェク

ト委員会」が、県全体の体力の向上に向けた課題を設定し計画を立て、具体的な取組を推進している。小委員会のメンバーは異校種の経験のある現場の教員が中心になっている。

## Do①▶▶ 埼玉県わくわく体力向上コンソーシアムの設置

埼玉県における子供たちの体力の向上のために、県教育委員会、県体育協会、県レクリエーション協会と埼玉大学で組織した「埼玉県わくわく体力向上コンソーシアム」を平成26年度に設立した。コンソーシアムでは、平成26年度に国からの委託を受け、県内の小学校13校をモデル校として指定し体力の向上への取組を実施している。運動好きな児童が増

えるよう「わくわく朝遊び」を中心とした、始業時間前や休み時間を利用した運動などのプログラムを検討・研究している。プログラムの実施にあたっては、主に地域の人材を活用している。

## Do②▶▶ 体力課題解決研究指定校

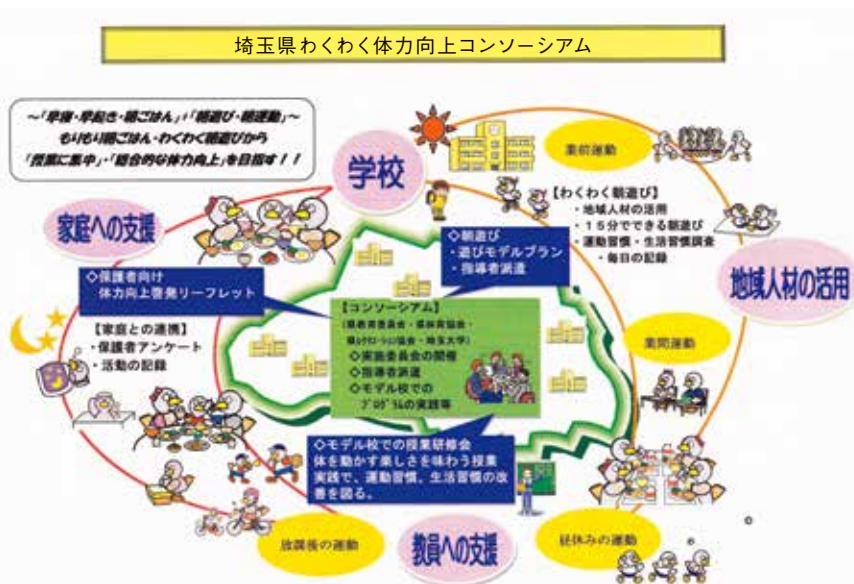
小学校、中学校、高等学校を対象に、毎年2年間の研究指定を行っている。指定校は、それぞれの体力の課題に応じた研究はもちろんのこと、地域や学校の特色を生かした研究を

行う。また、研究校の取組として、新体力テストの数値の結果だけでなく、家庭との連携による生活習慣の改善や、食育等、健康面から総合的に体力の向上へアプローチする取組が多く行われている。

## Do③▶▶ 体力向上プロフィールシート

埼玉県では、一人一人の今年の記録を入力すると、全国平均値や、次回の自分の目標値が自動的に表示されるようにプログラミングされている個人シート「体力向上プロフィールシート」(次ページ参照)を作成し、各校で活用している。入力した記録が目標値を達成していると、県のマスコットであるコバトンの「やったね!マーク」が現れるようになっており、子供たちのやる気を引き出している(小学校では、春秋の2回記入できるようになっている)。

子供たちは、毎年このシートを記録として積み重ねており、ファイリングされたデータは、小学校から進学先の中学校に送ることになっている。また、家庭に持ち帰り親子で記録について確認することができるようになっている。



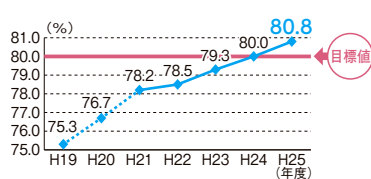
▲埼玉県わくわく体力向上コンソーシアムの構成図

## 参考

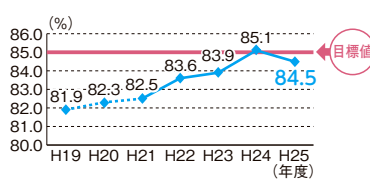
### 埼玉県の体力の状況

埼玉県では、毎年5月から6月にかけて、県内の全児童生徒を対象として、新体力テストを実施している。結果はここ数年向上傾向を維持しており、総合評価A+B+Cの割合は、小・中学校どちらも平成24年度に目標値に到達した。

#### 小学校：(A+B+C)の割合



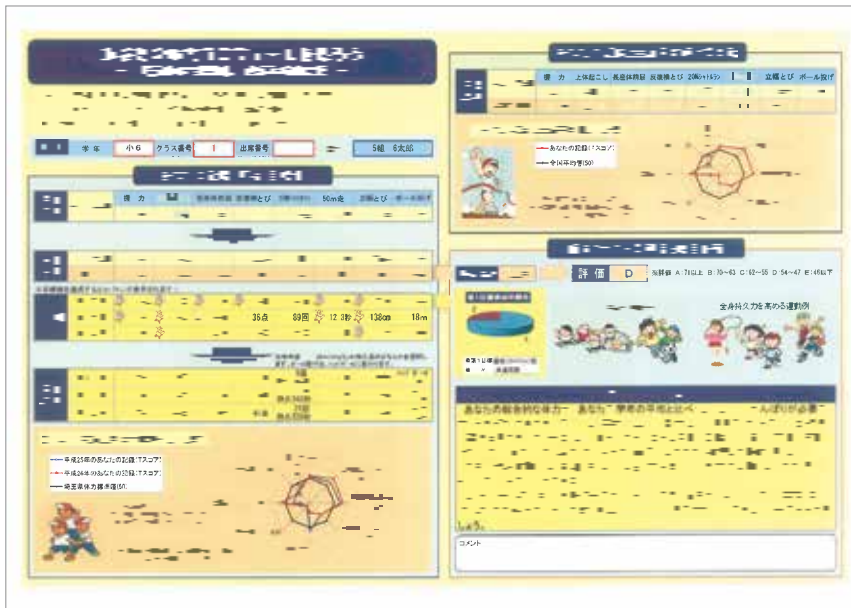
#### 中学校：(A+B+C)の割合



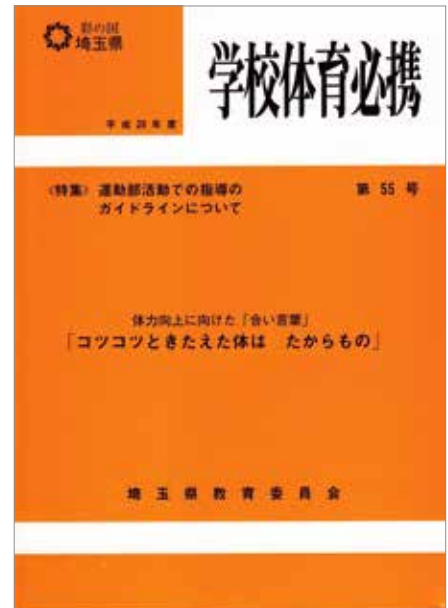
▲埼玉県過去7年間の総合評価(A+B+C)の割合(学校体育必携第55号)

## Do④▶▶ 指導用資料やポスター等の作成

平成18年度から毎年、「子どもの体力向上実施委員会及び体力向上プロジェクト委員会」で、前年度の課題をふまえた体力の向上のための資料を作成し、各校に配布している。資料の中には、体育の授業や業前、業間等の時間、家庭において手軽に取り組めるよう、体力の要素に応じた運動プログラムを収録したDVD等があり、授業等で活用している。



▲体力向上プロフィールシート



▲『学校体育必携』 第55号

## Check▶▶ 連絡協議会を実施することで取組の状況を把握

市町村体力向上推進委員会連絡協議会を年2回実施し、各市町村の体力の向上に関する取組の情報交換を行う機会を設けている。そこでは、

各市町村の体力向上推進委員会の取組事例の発表や意見交換を行い、県の推奨している取組を含め成果の確認を行っている。

さらに、体育の授業における指導法の研究に関して、県小・中・高等学校体育連盟との連携を図った体育授業研究会や体育研究協議会を各地

区で開催し、成果をまとめている。

## Action▶▶ 評価から新たに見えてくるものを提示する

毎年、前年度の課題と計画をもとに取り組んだ成果と、次年度の課題とその計画について、『学校体育必携』としてまとめて発行している。その具体的な内容は、各市町村に悉皆研修で周知され各学校に広められる。この取組は今年で55年目を迎え、埼玉県が熱心に体力の向上についての取組を継続してきた様子が見えてくる。

### コラム Column

#### 「コツコツときたえた体は たからもの」

埼玉県の体力の向上に向けての合い言葉である。「コツコツ」には、3つの意味があり、①運動ができるようになるためのコツ②体を強くする骨(コツ)③地道に頑張るコツコツ、である。この合い言葉は平成18年度に公募により、県内の生徒の考えた言葉が採用されたものである。今では、県内の体育関係の文書を始め、行事等では必ず目にするできるようになっている。

## まとめ 改善のサイクルをくり返そう

調査を分析することで、課題が具体的にになり、目標が明確になる。そのことにより、自治体や学校の課題に応じた実践、評価と次なる改善へとつながっていく。このサイクルを繰り返すことで、体力の向上が図ら

れていく。学校であっても教育委員会であっても、目指すところは将来にわたって運動が好きになり、運動に親しむことができる子供を育てることである。体を動かすことが楽しい、できることがうれしい、といっ

たことを味わいながら、自分の体についての関心を深められるよう、改善のサイクルをくりかえしていくことが大切であろう。

第2章  
課題と対策

課題対策1  
調査の結果をPDCAサイクルで有効に活用しよう